

清浄寺



本堂外観



本堂内陣



親鸞聖人御木像「おむくさま」

清浄寺の開基西念法師は、今から約八百年前、源氏八幡太郎義家の流れをくむ信州（長野県）高井郡井上城主井上盛長の子として生を受け、名を三郎貞親と申しました。やがて貞親五歳の時、父盛長が奥州の乱で討ち死にし、また二十八歳の時に母に別れ世の無常を觀じ、当時流刑地越後（新潟県）におられた親鸞聖人を訪ね門弟となったのです。

親鸞聖人は貞親に西念という法名を授け、西念は常時聖人にお供していましたが、やがて聖人は赦免され関東に向けて旅立つこととなります。西念三十一歳の時であります。聖人と共に武蔵国足立郡野田（さいたま市）に坊舎を建立、西念寺と号し教化の第一歩を踏むことになったのです。その後、聖人の命により当時諸国の船通路で諸人の集まるところであった二郷半木売川戸（吉川市木売）に西光院（現在の清浄寺）という念仏道場を起立したのです。これが清浄寺のはじまりであります。

西光院には親鸞聖人もたびたび足を運ばれ、有縁の人々に説法し当時の縁起には『参詣市の如く群集せり』とつたえられています。西念は木売西光院と野田西念寺を行き来しながら、お念仏弘通の生涯を送られたのです。やがて正應二年（一二八九年）三月十五日、隠居地の西光院すなわち当寺にて御往生されました。西念百八歳でありました。



おむくの池

さて、現在清浄寺には西念が親鸞聖人から賜ったと伝えられる親鸞聖人木像が本堂に安置されており、この御木像は「おむくさま」と呼ばれています。西念亡き後、西光院第三代西順の時世は乱れ御木像が失われることを恐れて、西順は御木像を門前に埋め隠したのです。やがて西光院第四代は了世になって、ある時御木像を埋めたところがむくむくと動き村人たちがそこを掘ったところ御木像が出現したそうです。御木像がむくむくと現れたので、いつの間にか「おむくさま」と呼ばれ、掘り出した跡は池をつくり「おむくの池」として現在まで寺の門前にあります。